



「神様の御業を紡ぐ」 黒田 朔

年を取ると新しいことを覚えられないが、古いことを思い出すことは得意である。それだけではない。その古い出来事を紡ぐことが出来、できごとを紡ぎ始めると見えてくる神様の御業がある。阪南バイブルチャペルがすべての手続きを終え、名実ともに自

立教会となりました。遡ると 1996 年、貝塚聖書教会による貝塚エリコ計画が立てられて以来 28 年目のできごとです。しかもその始まりは 1972 年、岸和田聖書教会のエリコ伝道計画まで遡ります。当時、岸和田の牧師 2 年目であった私たちが 55 年を経た今、阪南バイブルチャペルで牧師として返り咲いています。そんなこと考えたこともありませんでしたが、神様の御業の不思議を思い、「しかし、このことは、『目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、人の心に思い浮かんだことがないものを、神は、神を愛する者たちに備えてくださった』と書いてあるとおりでした。」(1 コリント 2:9) を思い出します。そして、昔、コリント教会の歩みに関わったパウロは自分たちの働きを振り返り、「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。」(1 コリント 3:6, 7) とコリント教会に書き送りましたが、将にその通り！ 55 年後の「HBC のやがて」を想像しては楽しんでいます。

※「紡ぐ」とは、綿や繭から糸を引き出し、撚りをかけて糸にすること。